

ヒトパピローマウイルス(HPV)予防接種注意書

1. ヒトパピローマウイルス (HPV) 感染症について

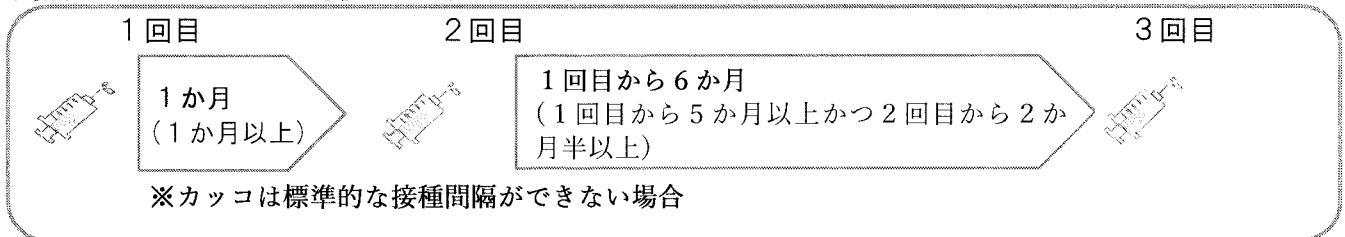
ヒトパピローマウイルス (HPV) は、ヒトにとって特殊なウイルスではなく、多くのヒトが感染し、そしてその一部が子宮頸がん等を発症します。200 種類以上の遺伝子型がある HPV の中で、子宮頸がんの原因となるタイプは少なくとも 15 種類あることが分かっています。HPV に感染しても、多くの場合ウイルスは自然に検出されなくなりますが、一部が数年から数十年間かけて前がん病変の状態を経て子宮頸がんを発症します。ワクチンで HPV 感染を防ぐとともに、子宮頸がん検診によって前がん病変（がんになる手前の状態）を早期発見し早期に治療することで、子宮頸がんの発症や死亡の減少が期待できます。

2. 接種回数と接種間隔について

①サーバリックス（2価）

効果：HPV(16、18)型の感染に起因する子宮頸がんおよびその前がん病変の予防

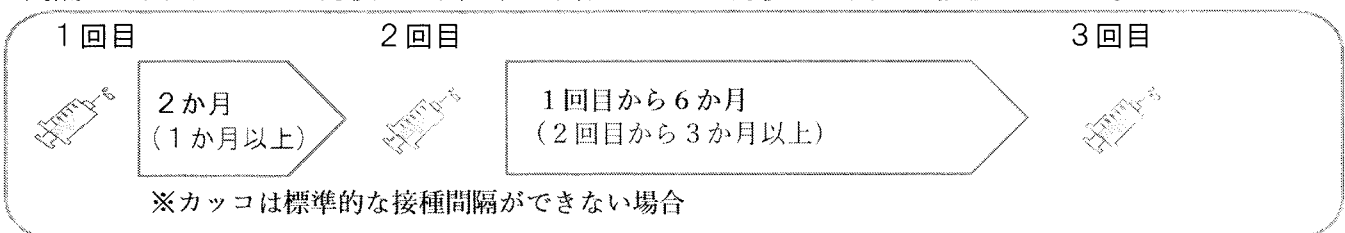
間隔：1回目から1か月後に2回目、1回目から6か月後に3回目の接種をします。



②ガーダシル（4価）

効果：HPV(6、11、16、18)型感染に起因する子宮頸がんおよびその前がん病変、尖圭コンジローマの予防

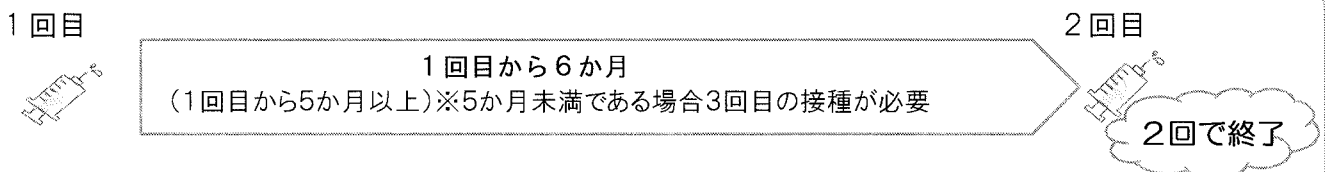
間隔：1回目から2か月後に2回目、1回目から6か月後に3回目の接種をします。



③シルガード9（9価）

効果：HPV(6、11、16、18、31、33、45、52、58)型、感染に起因する子宮頸がんおよびその前がん病変、尖圭コンジローマの予防

① 1回目の接種を15歳になるまでに受ける場合は、1回目から6か月後に2回目を接種します。



② 1回目の接種を15歳になってから受ける場合は、1回目から2か月後に2回目、1回目から6か月後に3回目の接種をします。

